

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 25 日現在

機関番号：32689

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12941

研究課題名(和文) 東欧世界の成立と日本：日本・東欧関係史の再構築と新たなスラブ・ユーラシア史

研究課題名(英文) Emerging Eastern Europe and Japan: A new perspective from Slavic Eurasia

研究代表者

家田 修 (Ieda, Osamu)

早稲田大学・社会科学総合学院・教授(任期付)

研究者番号：20184369

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：ヨーロッパからシベリアを経て極東へと至るユーラシア大陸の北半分はEU、ロシア、東アジアという異なる地域名で区分されるが、歴史的にはモンゴル帝国、ロシア帝国、社会主義体制、近年の「一帯一路」政策など、様々な文明が交錯する場である。日本は明治以降、東アジアへと進出するだけでなく、次第にロシア東欧への関心と関与を深め、満州政策は北ユーラシア全体を視野に収めるものだった。本研究では東欧と日本という北ユーラシアの両極から北ユーラシアを結びつけた人々のネットワークに注目し、トランスナショナルな地域史として北ユーラシア史現代史を構想した。

研究成果の概要(英文)：Northern Eurasia, ranging from Europe to Far East through Siberia, is divided among the regions such as European Union, Russia, and East Asia. However, here has been a open space over which various civilizations and empires like Mongols, Russians, Socialists, Chinesees had influence. Japan, following the Meiji restoration, expanding to East Asia, progressed to the west ward with interests in Russia and Eastern Europe. Her diplomatic policy of Manchuria was in a scope of whole Northern Eurasia. This research project aims to establish a new approach to Northern Eurasia as "transnational history" though lightening on networks of the peoples .

研究分野：東欧地域研究

キーワード：東欧 スラブ・ユーラシア 両大戦間期 国際連盟 日本外交 日露関係 第一次世界大戦 トランスナショナル

1. 研究開始当初の背景

日本は明治以降の近代化の中で積極的に世界と関わり、多様な遺産を形成したが、戦後は敗戦の呪縛により重要な正の遺産までもが検証されないまま放置された。とりわけ日本と東欧の関係は、1980年代はじめに研究対象となっただけで、以後、ほとんど日本の研究者の視野の外に置かれ続けた。しかし近年は日本と東欧の双方で戦前の関係史を見直す動きが生まれ、本研究が構想される前提となった。

2. 研究の目的

スラブ・ユーラシア(旧ソ連東欧)地域は第一次世界大戦、ロシア革命とソ連の成立、東欧諸国の独立という一連の世界史的出来事によって誕生する。同時期に日本は明治以来の近代化の中で帝国形成を明瞭に自覚し、有力なグローバル・パワーとして行動し始め、東欧地域は日本に強い関心を抱き、実際に国際連盟等を通して互惠的關係が築かれた。本研究では第二次世界大戦と冷戦により中断された日本・東欧関係を再構築し、スラブ・ユーラシア地域形成に日本が果たした役割を提示することである。

3. 研究の方法

東欧諸国及び日本の公文書館・博物館の史資料、関係団体・個人が残した史資料の調査を行なう。関係者や研究者を招聘して研究会を行なう。

4. 研究成果

ヨーロッパからシベリアを経て極東へと至るユーラシア大陸の北半分はEU、ロシア、東アジアという異なる地域名で区分されるが、歴史的にはモンゴル帝国、ロシア帝国、社会主義体制、近年の「一帯一路」政策など、様々な文明が交錯する場である。日本は明治以降、東アジアへと進出するだけでなく、次第にロシア東欧への関心と関

与を深め、満州政策は北ユーラシア全体を視野に収めるものだった。本研究では東欧と日本という北ユーラシアの両極から北ユーラシアを結びつけた人々のネットワークに注目し、トランスナショナルな地域史として北ユーラシア現代史を構想した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

主な雑誌論文

1. 井上統一、ВЕРНУТ ЛИ РОДСТВЕННИКАМ ЧЕРЕП, АЙНСКОГО ВОЖДЯКАРАФ УТО БАГУНК, Pole, 2018、近刊、査読無、OA無

2. 家田修、杉原千畝の愛知五中時代(1912 - 1917)、宇宙樹、2018(5)、2018、1-2、査読無、OA無

3. 家田修、難民・移民と欧州統合：東欧から見た壁、歴史学研究、no.7、2018、印刷中、査読有、OA無

[学会発表](計 11 件)

1. 家田修、杉原千畝の愛知五中時代(1912 - 1917) 北欧文化協会(招待講演) 2018

2. 井上統一、ピウスツキのサハリン研究とバフンケの髑髏、日本東欧スラブ関係史研究会(招待講演) 2018

3. Osamu Ieda, "Another Referendum in Hungary on Migration on October 2, 2016", World congress of International Metropolis Conference (招待講演)(国際学会) October 27, 2017,

4. 村上亮、台湾総督府官僚の見たハプスブルクの植民地統治 —「ボスニン・ヘルツイゴヴィナ國拓殖視察復命書」を手がかりに—、日本東欧スラブ関係史研究会(招待講演) 2017

5. 柴理子、日本・東欧文化交流史への序曲：音楽家カテリーナ・トドロヴィチの足跡、日本東欧スラブ関係史研究会（招待講演） 2017
6. 越村勲、メシュトロヴィッチと構造社：クロアチアと日本の彫刻家たちをつないだ夢、日本東欧スラブ関係史研究会（招待講演） 2017
7. Osamu Ieda, Magyar Referendum Japan szemmel, ヨーロッパ法学研究会、招待講演、国際学会、 2016
8. Osamu Ieda, Hungarian-Slovak relations in the migration crisis of EU Integration, ドナウ共生研究会、国際学会、 2016
9. Osamu Ieda, Social resilience after disasters in Chernobyl, Ajka and Fukushima from a viewpoint of affected residents, University College London (School for Slavonic and East European Studies, 2016、招待講演、国際学会
10. Osamu Ieda, Crisis and Resurrection: in an Alternative Perspective, International Council for Central and East European Studies, 2015, Kanda Gaigo University、国際学会
11. Osamu Ieda, Disaster management in Japan and Hungary: Hungarian model, Valsag Kutato Csoport, 2015, Eotvos Lorand University、招待講演、国際会議
〔図書〕(計2件)
1. Osamu Ieda, Christopher Baker, Akira Nozaki, Eiichi Hizen, Yoshiteru Iwamoto, Chattip Nartsupha, Noriyuki Suzuki, Simon Bytheway, Pasuk Phongpaichit, Pornsan Watanangura, Takeko Suzuki, Pasuk Phongpaichit,

Choosit Choochat, Plubplun Kongchana, Thippawal Srijantr, Achara Kringkasamsri, Chatriya, Lertvicha, Pornpilai Lertvicha, “Catastrophe and reconstruction from a regional and humanitarian perspective: Chernobyl, Akja, and Fukushima, in Chatthip Nartsupha and Chris Baker eds., *In the light of history*”, 295(123-144), 2015, Sangsan (Bangkok)

2. Osamu Ieda and Susumu Nagayo eds., *Transboundary Symbiosis over the Danube II.: Road to a Multidimensional Ethnic Symbiosis in the Mid-Danube Region*, Slavic-Eurasian Studies, No.29, 195, 2015, Slavic-Eurasian Research Center, Hokkaido University
〔産業財産権〕
出願状況（計0件）
取得状況（計0件）
〔その他〕

ホ ー ム ペ ー ジ 等 :
<http://www.scholar-errant.com>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

家田 修 IEDA Osamu (早稲田大学、社会科学総合研究院、教授)
研究者番号：20184369

(2)研究分担者 なし

(3)連携研究者 なし

(4)研究協力者

越村 勲 KOSHIMURA Isao (東京造形大学、造形学部、教授)

井上 紘一 INOUE Koichi (北海道大学、名誉教授)

柴 理子 SHIBA Riko (城西国際大学、国際人文学部、准教授)

村上 亮 MURAKAMI Ryo (福山大

学、人間文化学部、講師)

大津留 厚 OTSURU Atsushi (神戸大学、名誉教授)

佐藤 雪野 SATO Yukino (東北大学、国際文化学研究科、准教授)